

時計の文字盤

時計は算数の宝庫です。

ただ、

一般に市販されている時計の文字盤が
幼児・低学年の学習に障碍があります。

あの文字盤は、

簡素に完成されたもので、

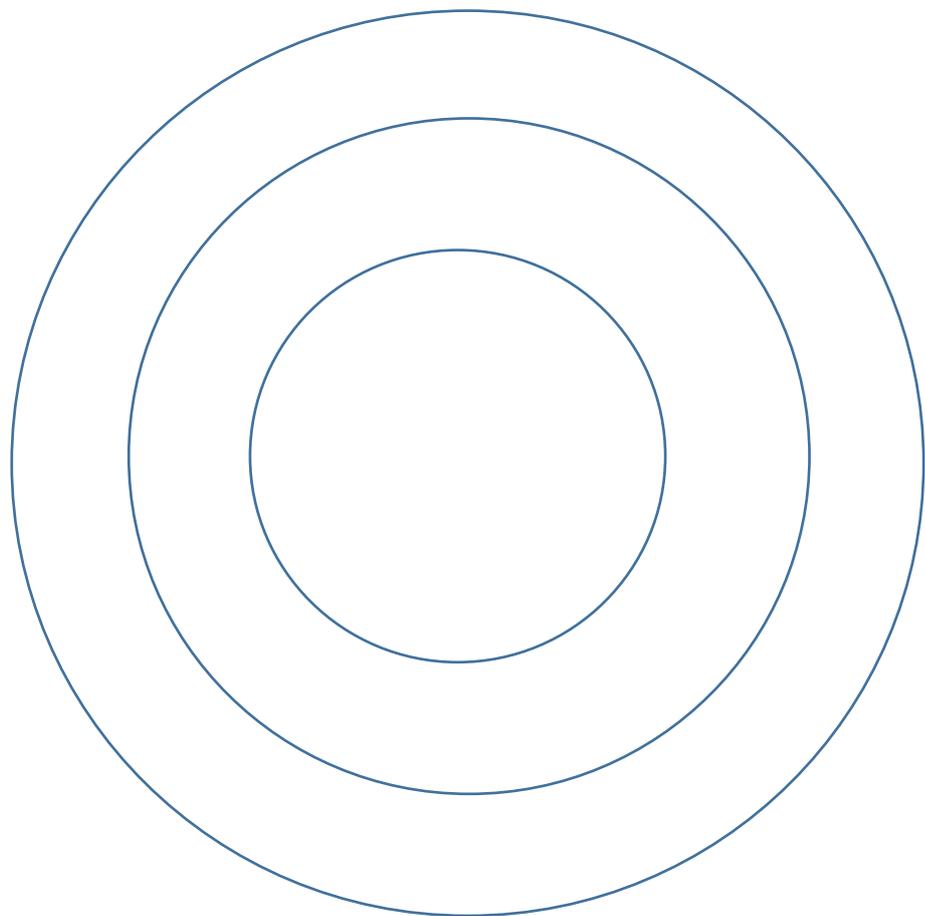
判る人にわかる、レベルのものです。

また、

時計の読み方を教える順序が、

子どもの時間感覚に沿っていません。

子どもの時間感覚は、



基本的に短いものです。

いや、生長の速い子どもにとって
大人にとって短い時間が長いのです。

ですから、

「何時」を初めに指導するのは、
文字盤に引っ張られたただけの話です。

子どもにとって解りやすいのは

秒です。

ですから、文字盤を「12表示」でなく、

「60表示」にして、

「秒」から指導を始めるといいのです。

「あと何秒で……………」と使えば、幼児でも始められます

何時何分？

時計を読む力を養う良い方法は、
まず、文字盤を、
12表示でなく、

60表示にすべきです。

学習指導の困った点は、
いつも、

最終的な洗練された形から

スタートすることです。

たぶん、

最も洗練された時計の形は、

文字盤の無い、

秒針、分針、時針だけが表示されたもの

でしょう。

それでも読めますから。

しかし、文字盤の無い時計の指導は、
小学一年生には難しいから、
教科書で採用されることは、
ありません。

ちょっと行き過ぎた提案をしましたが、
今の時計指導も最初が難しく過ぎます。

どの子にも難しい

と言うわけではありませんが、
優秀な会社経営者になった人が、

『四年生まで時計の読み方が判らなかつた』

と言われたのを聞いたことがあります。

算数的に言って、
指導の順序は違うだろう、と思います。

まず、第一に、

「何時何分何秒」の順で読むからと言って、
「何時」が「何秒」より易しい課題
ではありません。

子どもにとって、

「3秒」はすぐに見えますが、
「3時間」は見えにくいものです。

だから、

時間は（時間に二つの意味があるのも面倒）

短い方から指導するのが良い
と思います。

そのために、

12表示の文字盤でなく、

60表示の文字盤が適当です。

60表示にすれば、

秒や分が、

すぐに判るので、

子どもによっては、

幼児でも読めるようになります。

「あと何秒」とか、

「何秒になったら」とか、

繰り返して使って、

時間を教えることができます。

「何秒」から始めて、

「何分」に進み、

最後に、

「何時」に至るのが

子どもの感覚に合う方法です。

12表示の時計にあわせるのではなく、

60表示の文字盤をつくり、

子どもの理解しやすい短い時間から始めるのが

優れた算数指導だと思います。

図形認識。

三角形、四角形、円

正三角形、
真四角、長四角
ひし形などの形の判別と
名称が言える。

折り紙・切り紙で
様々な形がつかれる。

図形の組み合わせ

図形の組み合わせは、

楽しいアソビです。

楽しく遊びながら、

図形を学習する方法はたくさんあります。

折り紙は、

世界に誇る図形学習の宝庫です。

タングラムは、

西洋の誇る図形アソビです。

タングラムを日本化した、

清少納言の知恵の板

も良いと思いますが、

たくさんの例示が世の中にあるので、

タングラムの方がお勧めかも。

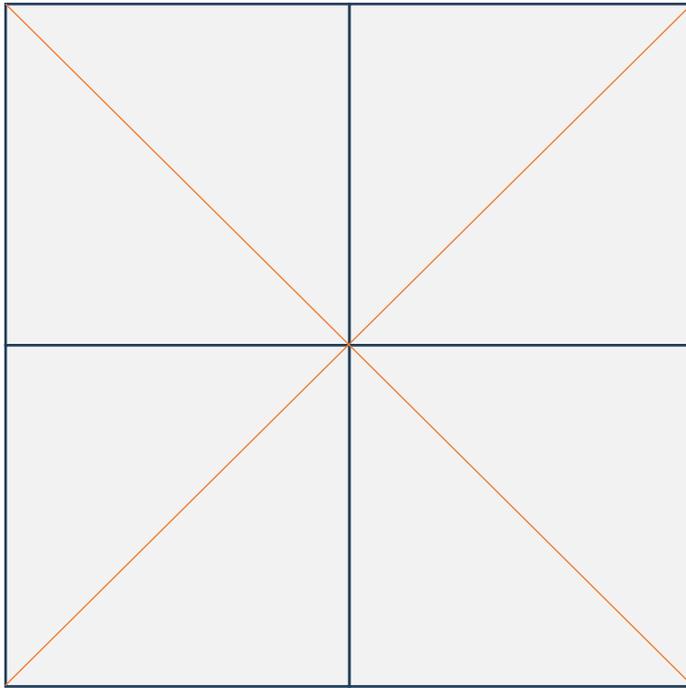
タングラムは、
板で作られているのを
組み合わせて遊びますが、
紙に印刷しておいて、
ハサミで切って、
用紙にノリで貼りつけて保存する方が
良い、と思います。

保存しておけば、
腕前の向上が見えますから、
楽しさも一入です。

ですが、
タングラムは、
やはりかなり難しいので、
時計と同じように、
もう少し易しいものから入門、
といきたいところです。

例えば、

次のような図形です。



私は算数の教師ですから、つい、

この三角形を2つ組み合わせて

長方形が出来るとか、

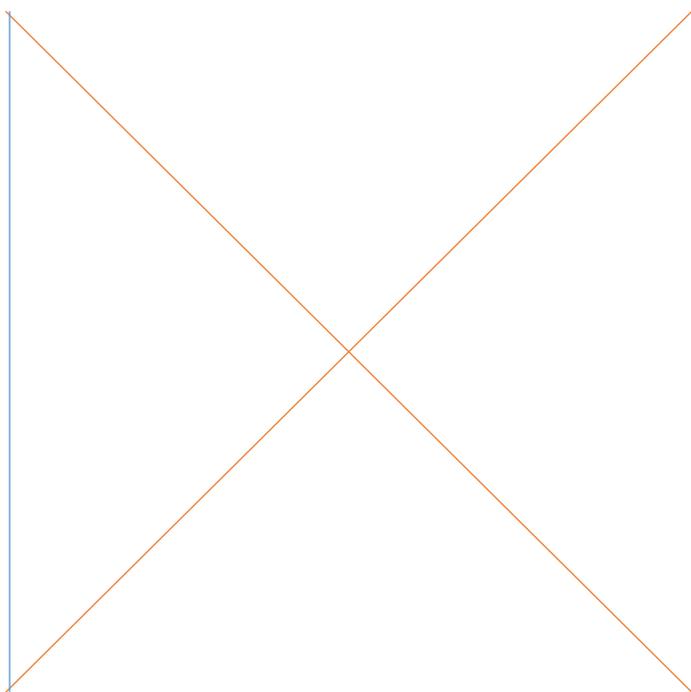
平行四辺形が出来るとか考えるのですが、

一年生は、

『チョウチョ』とか、『お舟』とか、

自由自在です。

次のような図形です。



「参りました」と思いました。